

令和6年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間 最終)

広南中学校区 校番 2 学校名 呉市立広南中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	(貫)9年間を通して、確かな学力を育成する	(貫)子どもの問いを生かした「考える授業づくり」を推進させた授業改善 妥当性、信頼性を高めていく評価改善	<ul style="list-style-type: none"> 「ICTの効果的な活用」の肯定的評価は、職員88%、生徒98%であり、職員も生徒もタブレット活用の効果を実感していると考えられる。「三角ロジックの活用」は、職員アンケートは38%と低かった。各教科において三角ロジックの活用場面を共有する等、職員の研修不足が課題である。 「授業では自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫している」生徒は86%で、昨年度と比較して低くなった。すべての学習活動において、自分の考えが相手に伝わるように、理由や根拠をもとに話したり書いたりする学習の設定が少ないと考えられる。 「全国学力・学習状況調査」は、国語・数学とも全国平均値比が同等の状況であるが、本校の目標値を上回ることはできなかった。中でも、自分の考えや問題解決の方法について、条件に応じて説明する力に課題があると考えられる。 1学期の研究授業では、授業観察者の「評価シート」による評価は肯定的評価が100%であった。2学期の研究授業に向けて、学園研修等を通して引き続き評価改善を行う必要がある。 「課題発見・解決学習」についての生徒アンケートの結果は、肯定的評価の平均が90%と高く、生徒自身が単元や題材のまとまりごとに、高い自己評価を行うことができているといえる。各項目ごとにアンケートを分析すると、「挑戦・探求」や「知識・技能」、「協力・協働」に関わるアンケート項目ではいずれも95%と高い数値が出ている一方で、「授業では自分の考えを積極的に伝えている」などの「思考・表現」に関わる項目は75%と全体と比較して数値が低い。こうした結果から、他者と協力しながら挑戦することはできるが、自己の考えを表現することに課題があるといえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用は、生徒の学習意欲の向上につながっている。シンキングツールなどの活用事例の研修などを通してさらに効果的な活用を進めていきたい。 すべての学習活動において、「三角ロジック」を活用し、根拠を用いた説得力のある主張になる表現活動を行う。また、中学校区の「はなしたいわ」シートを活用し、自分の考えをもち、自分と同じまたは異なる他者の考えと向き合いながら、考え・議論する習慣を身に付けさせたい。 日常生活と絡めながら知識・技能を習得させるとともに、目的に応じて必要な情報を取り出してまとめたり、筋道立てて説明したりする力を身に付けさせる授業の充実を図る。 評価規準や評価方法の妥当性、生徒が自らの学習を調整することができる振り返りの工夫などに留意して、授業研究や協議等を行う。 「はなしたいわ」シートを活用して、理由や他者の意見をふまえた表現活動を行うことで、自己の考えを表現する機会を意図的に計画する。
**	(貫)礼節と挑戦心を身に付け、健やかでたくましい心と体を育成する	生徒の相互指導能力の向上による学校の伝統文化の継承・発展 体力の向上 不登校・低学力等の課題への組織的な対応能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒会、委員会の提案する活動に積極的に協力しています」の生徒の肯定的評価は91%であった。生徒会活動で、伝統の継承・発展に向けた取組や学習規律を整える取組を行い、生徒朝会で取組の成果や課題、改善策を共有した成果であると考えられる。一方で、全体の目標値は達成しているが、1年生の肯定的評価は85%であり、2・3年生の評価と比べて低い。1年生にとって入学して間もない1学期は、生徒会の仕組みの理解等が不十分であったと考えられる。 新体力テストの結果では、得点合計は高くなっており、目標値は達成している。今年度の総合評価(A～E評価)は、昨年度と比較して、2年生は評価が上がった生徒が1人であるが、下がった生徒は5人(男子3人、女子2人)である。一方で、3年生は、下がった生徒は1人であるが、上がった生徒は4人(男子4人)であった。得点合計は高くなり、2年生には伸び悩みが見られ、逆に3年生は着実に体力が付いている。 「生活リズムを整えて生活している」生徒の割合は84%(1年生90%、2年生73%、3年生85%)と目標値(90%)を下回った。学年ごとの結果では、特に2年生の結果が低い。計画的に課題に取り組むことや、就寝時間を守るなど、生活リズムの固定に課題がある生徒がいると考えられる。面談等による、実態の把握と指導や相談などが必要である。 「将来の夢や目標を持っている」生徒の割合は91%と目標値を上回った。昨年度と比較して9ポイント高くなっており、夢や目標を持つ生徒が増えていることがわかる。「総合的な学習の時間」を中心に、自分の将来について考え、地域社会に貢献しようとする態度が身に付いてきたと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「Shining Sun Project」や「届けよう、服のチカラプロジェクト」など、生徒が自主的・意欲的に取り組める生徒会活動を引き続き実施していく。また、それらの生徒会活動を振り返らせることで、自身の取り組み方を肯定的に評価できるようにする。 2学期は文化活動発表会を実施する。各学年が設定した課題を解決しながらその成果を発信し、伝統文化を発展的につなげる活動にしていこう。 2年生は、今後冬場にかけて基礎体力を付けるようにトレーニングを実施し、次回の測定に向けた準備をしていく。3年生は体の成長が進み、体力が付き、体幹等がしっかりしてきた。体育の授業等でその体力を生かせるようプログラムを組み、更なる体力アップを図っていききたい。 生徒の様子の変化に対応する丁寧な生徒指導、家庭との連携を行う。また、登校しにくい原因を多面的に分析し、登校できる環境を整える。 アムニティ環境推進委員会での情報収集や協議内容を全職員で共有し、全職員が生徒の様子を把握し、組織的に対応できるよう取り組む。 「キャリア・スタート・ウィーク」や進路学習など、「総合的な学習の時間」の学習を中心として、自分の夢や目標に向けて努力することの大切さを実感できるように指導を継続する。
*	(貫)地域に感謝・貢献し活力を生み出す学校をつくる	地域に感謝・貢献し、地域の人材を活用しながら地域と協働できる場の充実 (貫)生徒の「自分の命は自分で守る」力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあります」に対する肯定的な回答は78%(1年75%、2年87%、3年75%)と、目標値(90%)を下回った。「総合的な学習の時間」の地域と関わった取組が2学期以降本格的に始まることが要因と考えられる。 「防災について、家族や地域の人たちと関わりながら、自分の命は自分で守る力をつけている」に対する生徒の肯定的評価は目標値を超え、特に1・3年生は100%であった。7月の「砂防教室」での学習や、6月の「垂直避難訓練」、7月の小学校・中学校合同「広南防災の日」の行事等の際に、地域の方々から地域の防災の取組や避難訓練への助言を聞くことで、「自分の命を守る」ために防災や減災に取り組む意識を持つ生徒が増えたと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の「活動」(1年落語、2年起業企画、3年創作劇)の中で、地域との関わりを意識させ、地域と関わる場を創りながら生徒の心を耕し、志をもたせるよう指導する。 自分が住む地域に起こりやすい災害と、その歴史を忘れないよう、地域と連携しながら、防災に関わる取組を実施する。また適切な機会を捉えてタイムリーな指導を行うことで、防災・減災を自分事として捉え、自分自身で身を守る方法を身に付けようとする態度を育てる。今後は、各教科の授業や生徒会活動等と連携し、工夫して取組を実施する。
業務改善	(貫)働き方改革を推進する	長時間勤務の縮減に向けた業務改善	<ul style="list-style-type: none"> 「子供と直接関わる時間が確保されている」に対する職員アンケートの肯定的評価は91%であった。職員は生徒と丁寧に関わっている。 時間外勤務時間は全体として昨年度より増加している。職員の入れ替わりで、初めて取り組む授業や行事の準備に時間がかかった。また、新しい校務支援システムの運用に莫大な時間を費やした。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事計画の確認や校内企画委員会での検討を丁寧にを行うことで、業務量のバランスを考えた適切な役割分担や、見直しを持った計画的な業務遂行ができるようになる。

